

# 私の主張

地方議員として26年あまり活動してきた私にとって地方活性化はライフワークとして取り組んできた政策課題です。地方の実情は大変厳しいものがあります。急速な少子高齢化の波を受け、存亡の瀬に立っています。

人たちが汗を流し、守り育ててきたふるさとが消えゆくのを、座視するわけにはいかないとの思いを強くします。

最大のポイントは雇用です。雇用が生まれればそこで生活が成り立ち、定住者がいなければなりません。

特効薬はありません。あらゆる政策を戦略的に積み上げていく必要があります。ます必要のは、地域の主要産業である農林水産業を元気にしていくことです。

## 雇用のプラス循環で地方活性化

例えば、野菜や果実などの食品加工工場を産地の近くに立地すれば新鮮な食材をそのまま製品化することができます。農繁期には田畠で働き、農閑期には加工工場で年間を通して働ける仕組みを作ります。地域の雇用にもつながります。生産地と加工工場を近くに設置することは古くから言われていることですが、実際に

増えればまた別の雇用の源泉となります。こうしたプラスの循環をどうやって作り上げるかが課題です。

また、地方には土砂崩れの危険地域や老朽化した橋や道路の補修など、安全・安心の観点から進めなくてはならない社会資本を元気にしていくことです。

は進んでいないのが実情です。農地法改正などが必要になりますが、ぜひ、実現したい政策の一つです。

また、「地方のことは地方にすべて任せるべきで、国は口出しすべきでない」という考え方にも賛成できません。地方分権は大きいに進めるべきですが、國の果たすべき役割はしっかりと果たさなければなりません。

その意味で地方活性化は、経済のグローバル化のなかでわが国が生き残っていくための極めて重要な政策課題だと考えます。

## 「団体戦」で「金」目指す国づくりを

整備が数多くあります。無駄な事業を行う必要はありませんが、地域防災や社会基盤の維持・保全に役立つ公共事業や、地域環境を保全するための公共事業（電線の地中埋設化など）は着実に進めていかなければなりません。

先般のロンドン・オリンピックで日本は団体競技で多くのメダルを獲得しました。多くの人が協力し合い、チームワークで世界に伍していく戦いぶりはわれわれに大きな感動を与えてくれました。私は、これと同様に、一握りの企業や地域だけが金メダルを目指すのではなく、各地域がそれぞれの特色を生かし、互いに協力しあいながら「団体戦」で金メダルを目指す国づくりを

都市は都市だけで成立しているのではないぐ、周辺の農山漁村とともに成り立っているのです。農山漁村が死ねば都市も死ぬというべきで、国は口出しすべきでない」という考え方にも賛成できません。地方分権は

は、な結構なことです。

## 小島 敏文（61）



党広島県第6選挙区支部長

地元活性化について、よく地方と中央、あるいは都市と農山漁村を対立的に論ずる人がいますが、間違っていると思います。

「団体戦」で金メダルを目指す国づくりを



広島県府中市上下町や神石高原町で党筆頭副幹事長の木村太郎衆院議員らと、ふるさと対話集会を開催した